

## 農村計画学会における これまでの災害対応の取り組み

災害対応委員会 委員長 柴田 祐（熊本県立大学）



農村計画学会  
The Association of Rural Planning

<http://rural-planning.jp/>

- ・ **豊かで美しい農村環境と、活力と魅力にあふれた農村社会の創出をめざす**教育・研究者、行政実務者、技術者および地域生活者の交流・啓発の場として1982年に設立
- ・ **社会、経済、法律、建築、土木、緑地、地理、環境科学など様々な分野を専門とする会員による学際的な交流**を通じて、学術研究のみならず、調査やセミナーの開催、農村整備政策へのコミットなどの多様な活動を展開

第22期（2024～2025年度）会長  
齋尾 直子（東京科学大学）

会員数 798人（2025年11月30日現在）

常置委員会：総務、表彰、校閲、編集、査読、学術研究、企画、  
国際交流、**災害対応**

非常置委員会：脱炭素特別

## 東日本大震災以降の農村計画学会の復興支援と災害対応

	学会の動き	春期シンポジウム	秋期シンポジウム	学会誌
2011年	大震災復興特別委員会設置			30巻4号特集 復興再生の課題と展望
2012年		東日本大震災から1年：地域コミュニティの復興に向けて		31巻1号特集 復興プロセスの計画と課題 31巻4号特集 大震災復興特集
2013年		東日本大震災から2年－農山漁村における生業・暮らしの復興と課題－		32巻4号特集 東日本大震災から3年：復興・生活再建の課題・成果・深化の展望
2014年		震災後3年の復興・生活再建の課題・成果・深化の展望	東日本大震災からの農業と地域の再興	33巻4号特集 東日本大震災から4年
2015年				34巻4号特集 東日本大震災から5年
2016年		東日本大震災復興の歩みと課題、これからの地方創生		
2017年			熊本地震における集落再生の現状と課題	36巻3号特集 しなやかな農村づくりによる減災
2018年			災害に強い地域づくりに向けて－西日本豪雨、熊本地震の現場から－	37巻4号特集 災間
2019年			棚田地域の震災復旧・復興、そして2019年台風19号を考える	
2020年	災害対応委員会設置 新型コロナタスクフォース設置			39巻4号特集 東日本大震災から10年
2021年	防災学術連携体へ参加	コロナ禍における農山漁村地域とウィズコロナの農村計画	不確実性に挑む農村計画－災害対応においてどのように意思決定がなされたか－	40巻1号特集 ポストコロナ社会の都市農村交流
2022年	学会設立40周年	40周年記念シンポジウム 不確実性に挑む農村計画－これまでとこれから－	災害対応の視点から今後の農村地域を考える	
2023年			豪雨の時代の農山村づくり～災害リスクとの共生をめざして～	
2024年	能登半島地震伴走支援	「こころ」からの農村計画：不確実性に挑む		
2025年				43巻4号特集 能登半島地震の1年

### 科研基盤研究 (A)

## 連携と持続に着目した東日本大震災の農村復興に関する総合的農村計画研究

代表：広田 純一（当時岩手大学農学部教授）

課題番号：24248039

研究期間：2012～2016年度

研究者：21名（農村計画学会大震災復興特別委員会メンバー中心）

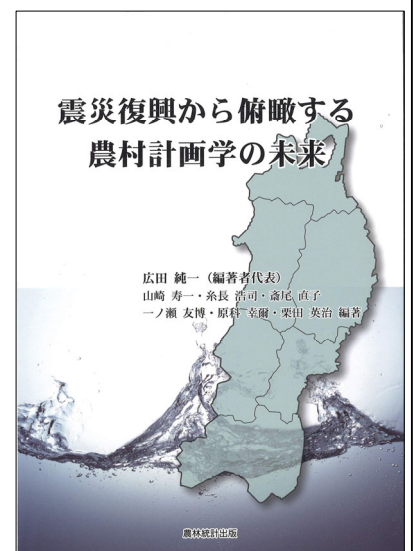
- 毎年、岩手県、宮城県、福島県において、公開研究集会・シンポジウムを開催。現地関係者による報告と公開討論を実施。
- 毎年2回、科研メンバーによる共同研究会を開催。研究計画と成果を報告、議論。
- 5年間の科研共同研究の成果を、科研の研究成果促進費を得て出版（2018年度）

### 震災復興から俯瞰する農村計画学の未来

3部構成、24章 全459ページ 執筆者18名

農林統計協会 2019年2月28日発行

- コミュニティの計画、空間秩序の計画、それらの融合と実践的計画論



# 農村における新型コロナウイルス感染症の拡大の影響に関する緊急情報収集

期間：2020年5月20日～5月31日

対象：農村計画学会員  
 会員のつながりの範囲内

## 提供をお願いした情報：

- |                     |   |                                 |
|---------------------|---|---------------------------------|
| ① 生業について            | × | ア どのような影響があったか                  |
| ② 生活について            |   | イ 困っていること                       |
| ③ 地域社会、コミュニティ活動について |   | ウ 新たに取り組んでいること、<br>取り組もうとしていること |
| ④ 地域外との関係について       |   | エ 今後の心配事                        |

## 回答の概要：

- ・学会員などから8分野、53の情報提供があった

## 2021年度春期大会シンポジウム（2021年4月17日）

テーマ：コロナ禍における農山漁村地域とウィズコロナの農村計画

## 得られた情報（一部抜粋）

### ① 生業について（農業・林業・漁業）

#### ア 新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響

##### 農業

- ・ 飲食店事業縮小による生鮮食品の**需要の減少**（岩手県陸前高田市）
- ・ 野菜関係については、物産館敷地内の直売所などが閉店状況にあり、**売る場所がない**状況があり、また、学校給食も休んでいることもあり、そこへの供給もできない状況があった。（山形県飯豊町）
- ・ **自然の中で百姓が出来る地方の暮らしは、快適で現状困る事はありません**（長野県富士見町）

##### 畜産

- ・ 兼業先が肉牛の肥育牧場であるが、採用予定であった**外国人技術実習生2名が来日できなくなった**（ベトナムから6月1名、秋1名、実習期間5年）。（岡山県久米郡美咲町）
- ・ 農業…牛肉や牛乳など、**価格の低迷、在庫過多**（大分県宇佐市）

##### 林業

- ・ 都心の工事等がストップ、合板の需要が減り、合板工場への出荷規制がかかった。（岩手県西和賀町）
- ・ 林業…木材**価格の低下**・椎茸**価格の低迷**など（大分県宇佐市）

#### ウ 新型コロナ対策として、新たに取り組んでいること、取り組もうとしていること

- ・ 企業との連携（岩手県陸前高田市）
- ・ **ネット通販の拡充、観光農園非対面型へのシフト**（熊本県山都町）
- ・ 新しい取り組みというのは、考えてはいませんが、**コロナ直前から、東南アジアの諸国へお米の輸出段階に入っています**。（鹿児島県伊佐市）

### ③ 地域社会、コミュニティ活動について

#### ア 新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響

- ・ 毎年行っていた**祭りの一部自粛**（神事・仏事のみ開催）（兵庫県豊岡市城崎町）
- ・ 溝さらえや道普請の様な屋外での**共同作業は例年通り行えている**（3密を避ける等のコロナ対策は実施している）（岡山県美咲町）
- ・ **多面的機能支払いの活動は通常通り実施している**（茨城県）
- ・ 地縁団体の総会等が**書面開催**なるなど、コミニケーションの場が減少（千葉県北総地域）
- ・ 集落の**高齢者によるサロンの自粛**。渡航自粛（封鎖措置）。（山口県周南市）

2021年度秋期シンポジウム (40周年記念プレシンポジウム)

**不確実性に挑む農村計画 災害対応においてどのように意思決定がなされたか**

2021年12月11日 (土) オンライン開催

**趣旨**

東日本大震災から10年

- ・この間にも想定外の災害, パンデミックの発生
- ・このような不確実性に対応しなければならない場面が増えている

過去10年間の災害対応の経験を踏まえ・・・

- ・現場においてどのように意思決定がなされたか
- ・農村計画学の知見がどのように生かされたのか
- ・経験を今後の農村計画学の発展にいかにつなげていくか

**不確実性への対応**

1. 不確実性をできるだけ減らす
  - ・予測の確度を上げる ←前例による教訓の蓄積
2. 想定外が発生した時点で、その時点の課題解決に集中
  - ・最善手を模索し、現実的な解決を目指す
  - ある意味「でたとこ勝負」「成り行き任せ」
3. そのために (事前に) 準備しておくべきこと
  - ・新たな問題を解決する能力 (=課題解決力) の獲得
  - ←新たな課題への挑戦と失敗、および反省と改善の繰り返し

2021年度秋期シンポジウム (40周年記念プレシンポジウム)

**不確実性に挑む農村計画 災害対応においてどのように意思決定がなされたか**

2021年12月11日 (土) オンライン開催

**趣旨**

東日本大震災から10年

- ・この間にも想定外の災害, パンデミックの発生
- ・このような不確実性に対応しなければならない場面が増えている

過去10年間の災害対応の経験を踏まえ・・・

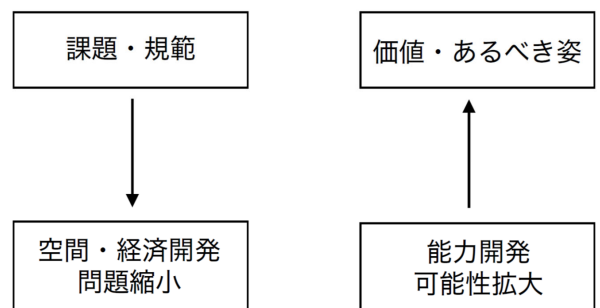
- ・現場においてどのように意思決定がなされたか
- ・農村計画学の知見がどのように生かされたのか
- ・経験を今後の農村計画学の発展にいかにつなげていくか

2022年度春期シンポジウム (40周年記念シンポジウム)

**不確実性に挑む農村計画 これまでとこれから** 2022年4月16日 (土) オンライン開催

**問題提起**

- ・どのように農村計画は不確実性の時代に対応する?
- ・「課題解決型・規範型」
- ↔
- 「能力開発型・価値創造型」



# 不確実性の時代における新たな農村計画の模索

- ・ 平時と非常時、ボムアップとトップダウン
- ・ 資源が限られる中での戦略（≒計画）

## ← 基盤研究（A）

能力開発と価値創造に基づく新たな農村計画論の構築

代 表：中塚 雅也（神戸大学農学研究科教授）

研究期間：2022～2025年度

研究者：11名

- ・ 不確実な環境にさらされる農村の持続的発展のため、農村に関わる多様な人々の能力開発と価値創造を促す新たな農村計画のモデルと理論を構築する
  - 心理的資本に着目、農村版心理的資本尺度を開発

## 能登半島地震・奥能登豪雨への対応





## 7/12 (土) 南志見復興まちづくり住民懇談会



農村計画学会  
The Association of Rural Planning



南志見地区の住民約120名が参加。  
事前に質問書をまとめ市役所提出しており、それに対して市長が一問一問丁寧に全て直接回答を行い、住民からも質疑が数多くあった。



ex. 創造的復興といわれてもピンとこない

- 住めない、住まないという選択をする世帯が多数、あと10歳若ければ、、、
- 集落に至る市道の復旧がいつになるのかの方が大きな問題
- 生業ではない生活としての農業をどのように再開できるのか

## 防災学術連携体や学協会連携について

- 農村計画学会は、様々な分野を専門とする会員による学際的な学会
  - 防災学術連携体は、様々な情報入手、意見交換の場として非常に重要
  - 学会の取り組みを広く伝える場としても非常にありがたい
    - 24/7/30 (火) 「令和6年能登半島地震・7ヶ月報告会」で報告
    - 25/4/25 (金) 第28回Web研究会「能登半島地震・豪雨からの農山漁村の復興」
    - 26/1/09 (金) 「防災学術連携体10周年記念シンポジウム」で報告
- 能登半島の伴走支援に際しては、日本建築学会農村計画本委員会と連携
  - 「能登半島地震の復興ステージを展望する」をテーマにAIJ・ARP共催セミナーをこれまでに3回開催
    - 24/6/15 (土) #1 これまでの震災復興から学ぶこと
    - 25/2/16 (日) #2 復興計画と生業の再生の現在地
    - 25/12/7 (日) #3 集落の現場からみたリアル
      - ▶ 地域の持続にむけた継続支援 (伴走) 選択肢を示す、行政とのつなぎ役
      - ▶ 都市とは異なる復興の計画と道筋 農山漁村の地形と土地利用、暮らし、生業
      - ▶ 伴走の単位 集落、家族 (他出子)、一人ひとり